

# 2015年度 センター試験 世界史B (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：36 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化 ● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化	
問題の分量（対昨年）	○ 増加 ● 変化なし ○ 減少	
出題分野の変化	○ あり ● なし	
出題形式の変化	○ あり ● なし	
新傾向の問題	○ あり ● なし	
<p>総評</p> <p>例年通り、テーマ史的なリード文を用いながら広い範囲の小問を集めた形式をとっており、大問 4 題・総解答数 36 問と、出題の分量も昨年と同じである。ただし、一昨年の 1 問から昨年 10 問に増加した戦後現代史は 5 問に減少している。</p> <p>出題形式では、昨年 12 問に増加した語句問題が 4 問に減少し、また昨年は姿を消していた指定年代の正誤を問う問題が 1 問ながら復活している。他の出題形式では、年表形式の問題が昨年の 3 問から 2 問となり、地図問題は昨年と同じ 2 問である。</p>		

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	世界史上の帝国の支配とその影響	25 点	地図や図表は用いていないが、センターらしく文化史や戦後現代史・年表形式の問題も含む総合的な学力が求められる内容である。
第 2 問	世界史上の港町	25 点	中国・インドの海港都市の位置を扱う地図問題を 2 問、年表形式の問題を 1 問含む大問。交易ネットワークや経済関連の問題が多く、近年の世界史入試問題全般の傾向をよく反映した出題となっている。なお、センターでは掲載される図表が設問を解く上で直接関係のないことが多いが、本問の 16 世紀リスボンの絵もそうである。
第 3 問	世界史上の軍隊	25 点	軍隊に関するリード文はユニークなものだが、各設問はオーソドックスなものである。近代ヨーロッパとアジア各地域から幅広く出題されており、苦手分野を作らないことの重要性がよくわかる大問。なお、第一次世界大戦時の日本でのドイツ兵の捕虜収容所という日本史的な地図やサルプの戦いの図を掲載しているが、設問を解く上では直接関係はない。
第 4 問	世界史上の遊戯とその伝播	25 点	チェスやじゃんけんなどを扱うユニークなリード文が目目を引くが、各問題は標準的。ただし、宋学に関する文化史問題は思想内容が問われており、理解を伴う学習が必要である。